

## 加藤義信先生 経歴・業績

---

### 経 歴

---

1947年8月、愛知県生まれ。岡崎高校から名古屋大学に進学。1970年3月、同大学文学部哲学科心理学専攻卒業。同大学院文学研究科に博士課程1年まで在学し、1974年3月に高知大学教育学部に就職。1983年9月から2年間フランス政府給費留学生としてフランス国立健康医学研究所 (I.N.S.E.R.M.) の Liliane Lurçat 主任研究員の下にて研究に従事。1991年に愛知淑徳大学文学部コミュニケーション学科へ異動。1999年10月、博士(心理学)の学位取得(名古屋大学論文博89号)。2000年より愛知県立大学文学部児童教育学科に勤務。2009年4月、学部学科改組により教育福祉学部教育発達学科に所属。2014年3月、退職予定。

---

### 研究業績

---

#### 〈著書〉

1. 児童心理学試論。(分担執筆)。(1975)。三和書房。(「3章 新しい発達理論」, pp. 85-96を執筆)。
2. 児童心理学試論改訂新版。(分担執筆)。(1984)。三和書房。(「3章 新しい発達理論」, [全面書き直し] pp. 108-123を執筆)。
3. 実践教職課程講座第3巻 児童・青年心理学。(分担執筆)。(1988)。日本教育図書センター。(「3章 児童の自己形成」, pp. 87-120を執筆)。
4. 発達の心理学。(共編著)。(1991)。学術図書出版社。(日下正一・加藤義信(編), うち「1章 子どものとらえ方の歴史」, pp. 1-24, 「4章 幼児期の子どもの発達」, pp. 84-114を執筆)。
5. 最新マインド・サイエンス。(分担執筆)。(1993)。八千代出版社。(「4章 精神の発達」, pp. 80-117を執筆)。
6. Aspects de la psychologie et de l'éducation de l'enfant au Japon。(分担執筆)。(1993)。Presses Universitaires de France。(Yamada, Y. & Kato, Y. Image de Moi dans le rapport mère-enfant. pp. 167-183を執筆)。
7. 空間に生きる—空間認知の発達の研究—。(分担執筆)。(1995)。北大路書房。(「12章 空間認知の歴史と理論」, pp. 220-249を執筆)。
8. 「ピアジェ-ワロン」論争。(共著)。(1996)。ミネルヴァ書房。(加藤義信・日下正一・足立自朗・亀谷和史 著, うち「1章 論争の発端」, 「2章 ワロン『行為から思考へ』におけるピアジェ批判」, 「3章 『国際社会学雑誌』における1950年前後のピアジェ-ワロン論争」, pp. 13-17, pp. 37-100を執筆)。
9. 人間発達と心理学。(分担執筆)。(2000)。金子書房。(「5章 『発達論』の文化依存性」, pp. 74-81を執筆)。
10. みるよむ生涯発達心理学。(分担執筆)。(2000)。北大路書房。(「4章 人々の中で—自己の発見と他者との関係」, pp. 81-107を執筆)。
11. Traditions et innovations dans l'éducation préscolaire。(分担執筆)。(2000)。INRP (France)。(L'éducation préscolaire des enfants de trois à six ans au Japon. pp. 177-202を執筆)。
12. Practicing the Afterlife: Perspectives from Japan。(分担執筆)。(2004)。Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften。(Yamada, Y. & Kato, Y. Japanese and French students' depictions of the soul after death. pp. 437-459を執筆)。
13. 心理科学への招待。(分担執筆)。(2004)。有斐閣。(「6章 コミュニケーションとからだ」, pp. 93-108を執筆)。
14. 錯視の科学ハンドブック。(分担執筆)。(2005)。東京大学出版会。(「3.11 発達と錯視」, pp. 328-338を執筆)。
15. ハンディキャップと都市空間—地理学と心理学の対話—。(分担執筆)。(2006)。古今書院。(「2章 空間移動にかかわる心理学の諸理論」, pp. 23-50を執筆)。
16. 認知発達心理学入門。(編者)。(2008)。ひとなる書房。(全体の編集およびコラムを執筆)。
17. この世とあの世のイメージ：描画のフォーク心理学。(分担執筆)。(2010)。新曜社。(「6章 フランスのイメージ画をもとに」, pp. 229-254を執筆)。

18. 発達科学ハンドブック3：時間と人間。(分担執筆). (2011). 新曜社. (「14章 情動と時間」, pp. 223-240を執筆).
  19. 子どもの心的世界のゆらぎと発達：表象発達をめぐる不思議。(編者及び執筆者). (2011). ミネルヴァ書房. (木下孝司・加用文男・加藤義信(編), 「まえがき」 pp. i-ii. 及び「序章 “有能な乳児” という神話——『小さな大人』発見型研究から『謎としての子ども』研究へ」, pp. 1-33を執筆).
- 〈学術論文〉
1. 山田亘・加藤義信・河野稔・植村美智子. (1975). 思春期・青年期における性. 高知大学教育学部研究報告, **27**, 23-80.
  2. Kato, Y. (1977) An experimental study of the development of spatial understanding in preschool children I—What features of shapes are important for recognition by younger children?—. 高知大学教育学部研究報告, **29**, 1-8.
  3. 加藤義信. (1979). 『空間表象の発達』研究の動向—2つの Piaget 型課題を中心として—. 心理学評論, **22(4)**, 394-407.
  4. 加藤義信・山田亘・柳本佳寿枝. (1980). コイの図形弁別学習におけるトポロジック的特徴抽出優位仮説の検討. 高知大学教育学部研究報告, **32**, 33-41.
  5. 加藤義信. (1982). 幼児の図形触知探索の発達. 高知大学教育学部研究報告, **34**, 129-135.
  6. 加藤義信. (1986). 水平性表象の発達—その段階設定の試み—. 高知大学学術研究報告, **34**, 105-120.
  7. 加藤義信. (1986). フランスにおける文盲問題と教育. 高知大学教育実践研究, **1**, 235-241.
  8. 加藤義信. (1986). 幼児における図形認知の発達—類同判断におけるトポロジック的図形特徴に基づく選択は何によって決まるか—. 高知大学教育学部研究報告, **38**, 67-73.
  9. Kato, Y. (1986). Development of spatial recognition in preschool children: On Piaget & Inhelder's hypothesis of topological space. *Perceptual & Motor Skills*, **63**, 443-450.
  10. 加藤義信. (1987). 子どもにおける水面の水平性観察の困難を規定している条件の分析. 高知大学教育学部研究報告, **39**, 69-80.
  11. Kato, Y. (1987). Microgenèse de la carte cognitive et sens de l'orientation. *Revue de Psychologie Appliquée*, **37(3)**, 261-282.
  12. 加藤義信・東ひとみ. (1988). 小学校6年生児童の認知地図形成過程の特徴. 高知大学教育学部研究報告, **40**, 15-32.
  13. 橋本憲尚・加藤義信. (1988). 発達の観点よりみた斜線効果現象. 教育心理学研究, **36(4)**, 358-368.
  14. 加藤義信. (1990). 空間関係理解の観点からみた幼児の頭足画. 高知大学教育学部研究報告, **42**, 199-215.
  15. 加藤義信. (1992). 幼児の方位弁別能力に関する一基礎資料：線分の方位弁別に及ぼす枠組みの効果一. 愛知淑徳大学論集, **17**, 145-155.
  16. 加藤義信. (1992). 空間とコミュニケーション—その研究領域とこれからの研究の可能性—. コミュニケーションと人間, **1**, 17-23.
  17. 加藤義信. (1993). 身体イメージ. 児童心理学の進歩, **32**, 63-87.
  18. 加藤義信. (1993). 『ピアジェ-ワロン論争』再考. 日仏教育学会会報, **21**, 16-22.
  19. 藤田尚文・片岡美紀子・加藤義信. (1993). 母親の養育態度, 発達観と子どもの行動特性. 高知大学教育学部研究報告, **46**, 27-47.
  20. 加藤義信・日下正一・足立自朗・亀谷和史. (1994). 読解：ワロン『行為から思考へ』におけるピアジェ批判. 心理科学, **16(1)**, 20-34.
  21. 加藤義信. (1995). 大規模空間における「方向感覚の個人差は何に由来するか—ミニチュア空間における位置記憶能力との関連の検討—. コミュニケーションと人間, **4**, 1-10.
  22. 日下正一・加藤義信. (1995). 子どもの生命認識の発達. 日仏共同研究中間報告書 (日仏教育学会), 149-167.
  23. 亀谷和史・足立自朗・日下正一・加藤義信. (1995). 1950年中葉の「ピアジェ-ワロン論争」—1955年発達段階に関するシンポジウムを中心—. 心理科学, **17(2)**, 25-47.
  24. 加藤義信. (1996). ザゾと「フランス学派」. 別冊「発達」, **20**, 95-113.
  25. Kato, Y. (1996). René Zazzo et la psychologie en langue française: vue d'un psychologue japonais. *Enfance*, **2/1996**, 253-258.

26. やまだようこ・加藤義信. (1998). イメージ画にみる他界の表象—この世とあの世の位置関係—. 京都大学教育学部研究紀要, **44**, 86-111.
27. 加藤義信. (1998). ペアでの経路探索が後の単独移動時のパフォーマンスに及ぼす影響—移動中のコミュニケーションに注目して—. 認知科学, **5(3)**, 36-48.
28. 加藤義信. (1999). 空間表象の発生的研究. 名古屋大学博士 (心理学) 学位論文 (論文博89号).
29. 服部淳子・加藤義信・山口桂子・水野貴子・中村菜穂. (2000). 日本の小学生の視覚認知能力の発達評価に対する Rey-Osterrieth Complex Figure Test の妥当性について. 愛知県立看護大学紀要, **6**, 19-25.
30. 加藤義信. (2001). アンリ・ワロンの発達論はなぜ難解か?—心理学におけるワロン・ルネサンスに向けての覚え書き—. 教育臨床心理学研究 (北海道大学大学院教育臨床心理学研究グループ2000年度紀要), **2**, 3-13.
31. Yamada, Y. & Kato, Y. (2001). Images of the soul and the circulatory cosmology of life: psychological models of folk representations in Japanese and French youths' drawings. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **47**, 1-27.
32. 加藤義信・やまだようこ. (2002). 日仏青年はどのような素朴「他界」観と「たましい」観を抱いているか. 愛知県立大学大学院国際文化研究科論集, **3**, 47-72.
33. 加藤義信. (2003). 日本におけるフランス語圏心理学の受容—研究序説—. 第二次世界大戦前後における教育・社会系心理学の展開とその功罪: 平成13-14年度科学研究費補助金基盤研究 (B)(1) 研究成果報告書 (研究代表者: 足立自朗, 課題番号13410032), 78-95.
34. Kato, Y. & Takeuchi, Y. (2003). Individual differences in wayfinding. *Journal of Environmental Psychology*, **23(2)**, 171-188.
35. Tsuji, K., Hayashibe, K., Hara, M. & Kato, Y. (2004). Detailed analyses of Ganzfeld phenomena as perceptual events in stimulus-reductive situations. *Swiss Journal of Psychology*, **63(3)**, 217-223.
36. 加藤義信. (2005). ワロンとリュルサの描画発達研究について. 日仏教育学会年報, **33**, 75-85.
37. 加藤義信. (2006). 21世紀の認識発達研究とワロン. 人間と教育, **49**, 31-36.
38. Yamada, Y. & Kato, Y. (2006). Images of Circular Time and Spiral Repetition: The Generative Life Cycle Model. *Culture & Psychology*, **12**, 143-160.
39. Yamada, Y. & Kato, Y. (2006). Directionality of Development and the Ryoko Model: Reply to Four Commentaries. *Culture & Psychology*, **12**, 260-272.
40. 木村美奈子・加藤義信. (2006). 幼児のビデオ映像理解の発達: 子どもは映像の表象性をどのように認識するか? 発達心理学研究, **17(2)**, 126-137.
41. 加藤義信・間宮正幸. (2006). フランス心理学とともに歩んで: 滝沢武久先生に聞く. 心理学史・心理学論, **7/8** 合併号, 53-72.
42. 木村美奈子・加藤義信. (2007). 幼児の発話内容の質的分析を通してみたビデオ映像及び写真の表象性理解. 愛知県立大学文学部論集 (児童教育学科編), **55**, 17-33.
43. 瀬野由衣・加藤義信. (2007). 幼児は「知る」という心的状態をどのように理解するようになるか?: 「見ること—知ること」課題で現れる行為反応に着目して. 発達心理学研究, **18(1)**, 1-12.
44. 加藤義信. (2007). “三つ子の魂”の成立とは何か?: 認知発達心理学から考える. 教育と医学, **647**, 22-29.
45. 加藤義信. (2007). 村上春樹の小説にみる鏡像体験の諸相. あいち国文, **1**, 37-49.
46. 加藤義信. (2007). 発達の連続性 vs. 非連続性の議論からみた表象発生問題: アンリ・ワロンとフランス心理学から学ぶ. 心理科学, **27(2)**, 43-58.
47. 間宮正幸・加藤義信. (2007). 私の教育学研究とフランス語圏心理学: 堀尾輝久先生に聞く. 心理学史・心理学論, **9**, 37-47.
48. 木村美奈子・加藤義信. (2008). 小学校2年生児童のビデオ映像の表象性理解—理解の揺らぎを中心として—. 愛知県立大学文学部論集 (児童教育学科編), **56**, 35-52.
49. 木村美奈子・加藤義信. (2008). 幼児は「テレビの中の人形を取り出すことができる」と思っているか?—映像の表象性理解に関する一実験的観察—. 愛知県立大学児童教育学科論集, **42**, 1-9.
50. 加藤義信. (2008). 発生的視点からみた情動と認知の関係—アンリ・ワロンの発達思想を手がかり

- に考える— 現代とエスプリ, **494**, 147-157.
51. 木村美奈子・加藤義信. (2009). 映像の中の人は現実世界を知覚できるか?—映像の表象性理解の発達: 映像対象が人である場合—. 愛知県立大学文学部論集 (児童教育学科編), **57**, 37-54.
  52. 瀬野由衣・加藤義信・木村美奈子. (2009). 子どもは「知っていること」を競争相手に教えないでいられるか?—教えないモデルの観察効果—. 愛知県立大学児童教育学科論集, **43**, 57-66.
  53. 工藤英美・加藤義信. (2010). 写真の表象性理解の発達—映像メカニズムに接する機会が与えられた場合の効果—. 人間発達学研究, **1**, 13-18.
  54. Kimura, M., Kato, Y. & Seno, Y. (2012). Can the image of a person on TV “see” what is happening in front of the TV?—Young children’s understanding of the representational nature of TV images—. *Proceedings of the 15th European Conference on Developmental Psychology* (Pianoro, Italy: Medimond S.r.l.), **August**, **2011**. 23-27.
  55. 加藤義信. (2013). 「心の理論」と表象理解—2～4歳児はどんな心の世界に生きているか—. 発達, **135**, 30-35.
- 〈翻訳書〉
1. 加藤義信・日下正一 (訳). (1995). 子どもの絵の心理学 (Wallon, Ph., et.al., *Le dessin de l’enfant*). 名古屋大学出版会. (序文、1, 2, 4, 7章, 結び, 全166ページの翻訳, 6ページの解説を担当).
  2. 加藤義信 (訳). (1999). 鏡の心理学 (Zazzo, R., *Le reflet de miroir*). ミネルヴァ書房. (全259ページの翻訳, 17ページの解説).
  3. 加藤義信・井川真由美 (訳). (2002). 子どもの絵の心理学入門 (Wallon, Ph., *Le dessin d’enfant*). 白水社 (クセジュ文庫). (1-5章87ページ担当, 解説4ページ執筆).
  4. 加藤義信・井川真由美 (訳). (2007). 子どものコミュニケーション障害 (Danon-Boileau, L., *Les troubles du langage et de la communication chez l’enfant*). 白水社 (クセジュ文庫). (はじめに, 1章, 2章, 計67ページ担当, 解説4ページ執筆).
- 〈翻訳〉
1. 加藤義信 (訳). (1981). ワロンとピアジェ (Birns, B. & Voyat, G., Wallon and Piaget). 教育, **394**, 30-44.
  2. 加藤義信 (訳). (1985). 指向性の機能と教育 (Tran Thong, *Fonction d’orientation et l’éducation*). 教育, **454**, 95-106.
  3. 加藤義信・日下正一・足立自朗 (訳・著). (1989). 子どもの思考の3つのシステム—理性的思考と運動的知能との関係についての研究— (Piaget, J., *Les trois systèmes de la pensée de l’enfant*). 心理科学, **11(2)**, 34-51.
  4. 加藤義信・日下正一・足立自朗・亀谷和史 (訳・著). (1992). 子どもの心理学的研究と社会学的研究 —「国際社会学雑誌」における1950年頃のピアジェ-ワロン論争の記録1— (Wallon, H., *L’étude psychologique et sociologique de l’enfant*). 心理科学, **13(2)**, 20-33.
  5. 日下正一・加藤義信・足立自朗・亀谷和史 (訳・著). (1992). 自己中心的思考と社会中心的思考 —「国際社会学雑誌」における1950年頃のピアジェ-ワロン論争の記録2— (Piaget, J., *Pensée égocentrique et pensée sociocentrique*). 心理科学, **13(2)**, 34-46.
  6. 亀谷和史・足立自朗・日下正一・加藤義信 (訳・著). (1993). 再びピアジェ氏に答えて—「国際社会学雑誌」における1950年頃のピアジェ-ワロン論争の記録3— (Wallon, H., *Post scriptum en réponse à J. Piaget*). 心理科学, **14(1)**, 45-53.
  7. 加藤義信 (訳). (1995). 教育と心性という2面鏡に映った日本とフランス (Voyat, R., *Le Japon et la France dans le miroir à deux faces de l’éducation et de la mentalité*). 日仏教育学会年報, **23**, 85-95.
  8. 加藤義信 (訳). (1996). 子どもの絵の発達 (Wallon, Ph., *L’évolution du dessin de l’enfant*). 人間とコミュニケーション, **5**, 81-86.
  9. 加藤義信 (訳). (1996). 子どもの絵と描線の自動分析 (Wallon, Ph., *Le dessin de l’enfant et l’analyse automatique du tracé*). 日仏教育学会年報, **24**, 169-177.
  10. 加藤義信 (訳). (1999). フランスにおける幼児期の子どもの受け入れ: 保育所における共同の遊びと知識の構成 (Rayna, S., *Accueil de la petite enfance en France; jouer ensemble et construire des savoirs à la crèche*). 日仏教育学会年報, **27**, 241-248.
  11. 加藤義信 (訳). (1999). フランスの学校と移民

- の子どもたち (Mesmin, C., *L'école et les enfants immigrés en France*). 日仏教育学会年報, **27**, 403-411.
12. 加藤義信 (訳). (2004). 現代フランス文明における死生観—質問紙調査による日仏比較— (Wallon, Ph., *Les idées sur la vie et la mort dans la civilisation française contemporaine*). 平成13-15年度科学研究費補助金基盤研究 (B)(2) 研究成果報告書 (研究代表者: 山田洋子, 課題番号13571006), 155-174.
  13. 加藤義信・星三和子 (訳). (2008). 「心の理論」の発達 (Deleau, M., *Le développement de “la théorie de l'esprit”*). 発達研究, **22**, 303-316.
  14. 加藤義信 (訳). (2008). 幼児期と障害—フランスの場合— (Plaisance, E., *Petite enfance et handicap: Le cas français*). 日仏教育学会年報, **36**, 85-95.
  15. 加藤義信 (訳). (2010). 女性の名において—フランスの女性の諸問題— (Mesmin, C., *Au nom de la femme*). 人間発達学研究, **1**, 63-72.
  16. 加藤義信 (訳). (2011). フランスにおける子どものことばとコミュニケーション障害研究の現状 (Dannon-Boileau, L., *Les troubles du langage et de la communication chez l'enfant tel qu'ils sont abordés en France: quelques exemples*). 日仏教育学会年報, **39**, 91-101.
- 知乳幼児健診を考える会編. (pp. 21-36を執筆).
2. 加藤義信. (1987). 過渡期のフランス心理学. 日仏教育学会会報, **10**, 4-8.
  3. 加藤義信. (1990). 書評「2歳児の幼稚園教育は是か非か」, 発達科学教育センター *Coder News Letter*, **14**, 12-16.
  4. 加藤義信. (1991). 保育実践「研究」について考える. 高知大学教育学部附属幼稚園紀要「心をつかむ土だんご」, 71-75.
  5. 松浦勲・加藤義信・太田素子. (1991). 高知県父子世帯実態調査報告書. 高知県福祉生活部, 1-96.
  6. 加藤義信. (1992). 頭足画の不思議 (*L'étrange des “bonshommes-têtards”*). *Les Voix*, **58**, 24-25.
  7. 加藤義信. (1992). 第25回国際心理学会参加で垣間見たもの. 日仏教育学会会報, **19**, 30-32.
  8. 加藤義信. (1993). *Aspects de la psychologie et de l'éducation de l'enfant au Japon* (久保田正人・Raymond Voyat 編:P.U.F. 1993) の発行に寄せて. 日仏教育学会会報, **21**, 37-38.
  9. 加藤義信. (1994). フランスで出版された『日本の児童心理学と児童教育の諸相』(*Aspects de la psychologie et de l'éducation de l'enfant au Japon*) について. 日本発達心理学会ニューズレター, **11**, 5-6.
  10. 加藤義信. (1995). 『子どもの絵の心理学』の発刊によせて. 季刊保育問題研究, **153**, 73-81.
  11. 加藤義信. (1997). 発達心理学の巨人たちとの古くて新しい出会い—1996年夏～秋 パリ・ジュネーヴ・ヌーシャテル—. 日仏教育学会年報, **3**, 182-185.
  12. 加藤義信. (1997). 発達心理学研究における第二外国語の効用. 日本発達心理学会ニューズレター, **22**, 9-10.
  13. 加藤義信. (1999). 「オカルト流行」の背後にある「パスカルの問い」を解明する—書評: オカルト流行の深層社会心理. 図書新聞, **2399(1999年7月25日号)**.
  14. Kato, Y. (1999). Préface à « Le Paranormal », *Que sais-je?*, **3424**, 3-4.
  15. 加藤義信・やまだようこ. (1999). 「文化・絵・イマジネーション」の10日間. 日本発達心理学会ニューズレター, **26**, 15-17.
  16. 加藤義信. (1999). 「発達論」の文化依存性について考えたこと. 名古屋シンポジウム「人間発達
- 乳幼児の健診を考える. (分担執筆). (1983). 高

#### 〈事典など〉

1. 教育心理学の基礎知識. (分担執筆). (1981). 福村出版. (「性差」他6項目執筆).
2. 家政学用語辞典. (分担執筆). (1993). 朝倉書店. (4項目執筆).
3. ラールス臨床心理学事典 (Sillamy, N., *Dictionnaire de la psychologie*). (分担翻訳). (1999). 弘文堂. (24名の共訳, 28項目翻訳担当).
4. 臨床心理学辞典. (分担執筆). (1999). 八千代出版. (21項目執筆).
5. *Dictionnaire d'éducation comparée*. (分担執筆). (2003). L'Harmattan. (attitudeの項目執筆, pp. 99-101).
6. 現代教育のキーワード. (分担執筆). (2006). 大月書店. (「表象と言語の発達」執筆, pp. 34-35).
7. 発達心理学事典. (分担執筆). (2013). 丸善出版. (「表象」執筆, pp. 388-389).

#### 〈その他〉

1. 乳幼児の健診を考える. (分担執筆). (1983). 高

- 心理学」「第3回人間発達研究へのアプローチ：隣接科学との対話要旨集」, 37-40.
17. 渡辺恒夫・加藤義信. (1999). 「発達心理学研究」の審査のあり方への一提言. 発達心理学研究, **10(2)**, 137-138.
  18. 加藤義信. (2000). 日下正一さんの業績と研究スタイル. 心理科学, **21(2)**, 26-31.
  19. 加藤義信. (2000). 「おもしろい」空間と「わかりやすい」空間の両立は可能か?—空間の learnability を高める工夫の必要性—. 2000年度日本建築学会大会建築計画部門研究懇談会資料「Wayfinding 研究の展開とその計画学的意味を探る」, 20.
  20. 加藤義信. (2000). 自訳書紹介: R. ザゾ著「鏡の心理学」. 日仏教育学会年報, **28**, 160-161.
  21. やまだようこ・加藤義信. (2001). 現代日仏青年の他界観の生涯発達の研究. 平成10-12年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書(研究代表者: 山田洋子). (2章, 4章, 6章, 計83ページ分担執筆).
  22. 加藤義信. (2001). 新刊紹介「Philippe Wallon; Le dessin d'enfant」. 日仏教育学会年報, **29**, 165-166.
  23. 加藤義信. (2002). 大学移動の効用と盲点. 大学と教育, **31**, 82-83.
  24. Kato, Y. (2003). Three weeks in Paris; exciting and fruitful. *Canon Foundation in Europe Bulletin*, **14**, 4.
  25. 加藤義信・やまだようこ・戸田有一・伊藤哲司・Wallon, Ph. (2004). Les représentations spatiales de ce monde et l'autre monde vues dans les dessins des étudiants japonais, vietnamiens, français et anglais. (日本、ベトナム、フランス、イギリスの大学生のイメージ画にみる「この世」と「あの世」の空間表象). 平成13-15年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2)研究成果報告書(研究代表者: 山田洋子, 課題番号13571006), 129-140.
  26. 加藤義信・間宮正幸. (2006). フランス心理学とともに歩んで: 滝沢武久先生に聞く. 日本における教育心理学の成立と展開を巡る歴史的研究: 平成15-17年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書(研究代表者: 高砂美樹, 課題番号15330138), 99-129.
  27. 加藤義信. (2008). 幼児における映像世界の表象性理解に関する発達の研究: 平成17-19年度科学研究費補助金(萌芽研究)成果報告書(研究代表者: 加藤義信, 課題番号17653090), 1-56.
  28. 加藤義信. (2009). 発達理論の社会-文化的被制約性. 日本発達心理学会ニューズレター, **58**, 2-3.
  29. 加藤義信. (2010). 新刊紹介 ダニエル・ペナック著『学校の悲しみ』. 日仏教育学会年報, **16**, 163-164.
  30. 麻生武・加藤義信. (2011). 発達段階論の過去・現在・未来. 発達心理学研究, **22(4)**, 335-338.
  31. 加藤義信. (2012). アンリ・ワロン“巡礼”の旅. 日仏教育学会年報, **18**, 161-164.
- 〈学会発表〉
- |                     |                         |
|---------------------|-------------------------|
| 国内学会発表数             | 93                      |
| 単独発表                | 19                      |
| 共同発表                | 74 (うち第一発表者 20, その他 54) |
| 学会シンポジウム等の話題提供、指定討論 | 45                      |
| 国際学会発表数             | 23                      |
| 単独発表                | 3                       |
| 共同発表                | 20                      |